

授業科目 (科目ID)	病理学 22d111		担当教員 (実務経験)	関口 翔平 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学において歯科医師として病理学の教育に従事しており、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	歯科衛生士として必要な疾患の原因、病態に関する基礎的な知識を習得する。				
到達目標	疾患の成り立ちや診断について述べる事ができる。疾患の予後について述べる事ができる。口腔領域の疾患の種類や病態について述べる事ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」病理学・口腔病理学(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②小テスト10% ③出席点10%		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の留意事項	①必要に応じて補助的教材としてプリントを配布したり、プロジェクターを使い示説を行う。 ②理解しやすいようにできるだけ歯科臨床に即した講義を行う。 ③適宜小プリントなどにより課題を与え、それに対する発表や討議を行う。 ④病理学を理解する上で、解剖や組織学・発生学などの基本的な知識が必要となるので、それらの科目も十分に復習することが望ましい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	病理学序論、病因論	病理学の概要と病気の原因について		
	2	遺伝性疾患ならびに奇形	遺伝、遺伝性疾患、奇形について		
	3	代謝障害	変性、萎縮、壊死について		
	4	増殖と修復	肥大、再生、創傷治癒について		
	5	循環障害	循環系の概要と循環治癒について		
	6	炎症と免疫	炎症と免疫について		
	7	腫瘍	腫瘍について		
	8	口腔病理、歯の発育異常、口腔領域の奇形	歯の発育異常、口腔の奇形について		
	9	歯の機械的および化学的損傷、歯の沈着物	歯の機械的および化学的損傷、歯の沈着物について		
	10	う蝕	う蝕について		
	11	歯髄の病変	歯髄の病変について		
	12	歯周組織の病変	歯周組織の病変について		
	13	口腔粘膜の病変、エプーリス	口腔粘膜の病変、エプーリスについて		
	14	口腔領域の嚢胞	口腔粘膜の嚢胞について		
15	口腔領域の腫瘍	口腔粘膜の腫瘍について			

科目 (科目ID)	微生物学 22d112	担当教員 (実務経験)	長谷部 晃 大学において歯科医師として微生物学の教育に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	微生物はどのような特徴をもった生物であるかを理解し、微生物とヒトあるいは他の動物との関わり合い、微生物が病気を起こすメカニズム、微生物によって起こる主な病気の発症メカニズムならびに治療法と予防法について学ぶ。				
到達目標	口腔の二大疾患である歯周疾患とう蝕の病因論を細菌学的に述べることができる。 微生物の侵入に対して生体はどのような防御反応をするのかについても述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版)・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	・定期試験100%※2回実施		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①教科書に準拠して講義を行うが、その方略としてコンピューターとプロジェクターを使用、写真やアニメーションを駆使してわかり易い講義を行う。 ②必ず講義の前に前回講義の復習の小テストを行い、その場で学生に発表してもらい、その発表に対して解説したり、さらに質問したりする。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	微生物学の発達と歴史 (長谷部)	分類学的位置、真核生物と原核生物、コッホ、パスツール、北里柴三郎、白鳥フラスコを用いた自然発生説の否定、コッホの原則		
	2	微生物の一般的性状 (長谷部)	細菌の微細構造(細胞壁、鞭毛、線毛等)と機能、グラム陰性菌と陽性菌の構造的な相違、増殖曲線、世代時間、偏性嫌気性、通性嫌気性、好気性、リケッチア、クラミジア、ウイルスの性状		
	3	微生物の培養法と観察法 (長谷部)	液体培地、寒天培地、選択培地、好気培養、嫌気培養、光学顕微鏡、位相差顕微鏡、電子顕微鏡		
	4	感染と発症 (長谷部)	付着因子-線毛、リポタイコ酸、毒素-内毒素、白血球抵抗因子-莢膜、内因感染、外因感染、日和見感染		
	5	自然免疫機構 (長谷部)	皮膚、粘膜、常在菌叢、補体ならびに、補体の活性化、食細胞、微生物の認識-Toll様受容体(TLR)、NK細胞、炎症性サイトカイン		
	6	免疫の概念と免疫担当細胞 (長谷部)	Tリンパ球、Bリンパ球、抗原、抗体、抗原提示細胞、抗体の種類が生体防御における意義		
	7	獲得免疫機構と粘膜免疫 (長谷部)	抗原提示、ヘルパーT細胞(Th1、Th2)、細胞傷害性T細胞、IgG、IgM、IgA、IgD、IgE、分泌型IgA、M細胞		
	8	ワクチン、アレルギーと自己免疫疾患 (長谷部)	I~IV型アレルギー、IgE、肥満細胞、生ワクチン、不活化ワクチン、ベーチェット病、シェーグレン症候群		
	9	細菌学各論 (長谷部)	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、ブドウ球菌、連鎖球菌、ナイセリア、ペイコネラ		
	10	化学療法、消毒と滅菌 (長谷部)	滅菌と消毒の違い、β-ラクタム系抗生物質、マクロライド系抗生物質、テトラサイクリン系物質、スタンダード・プレコーション、MRSA、薬剤耐性、菌交代症		
	11	口腔微生物 (長谷部)	唾液と歯肉溝滲出液、リゾチーム、ムチン、口腔常在菌叢デンタルプラーク(バイオフィルム)の形成機序、歯石の形成機序		
	12	う蝕症 (長谷部)	う蝕は細菌感染症である、う蝕発症に関わる要因、mutansレンサ球菌のう蝕原性、歯髄炎、歯根尖感染性疾患、カイスの輪		
	13	歯周疾患、口腔細菌による全身疾患ならびにその他の感染症 (長谷部)	歯肉炎と歯周炎、急性壊死壊瘍性歯肉炎、慢性歯周炎、リスク因子(喫煙、加齢)、歯周病原細菌と病原因子、red complex誤嚥性肺炎、菌性病巣感染、口腔のその他の感染症、放線菌症、口腔カンジダ症、ヘルペス、肝炎ウイルス、エイズ		
	14	口腔細菌学実習1 (山内)	培地作成と歯垢・唾液の接種		
15	口腔細菌学実習2 (山内)	唾液・歯垢細菌の観察-グラム染色			

授業科目 (科目ID)	薬理学 22d113		担当教員 (実務経験)	吉村 善隆 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学において歯科医師として薬理学の教育に従事しており、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	薬理学、すなわち薬物と生体(からだ)の相互関係について理解する。				
到達目標	歯科臨床に用いられる薬物の取り扱いについて述べるができる。歯科診療内容と、それに関連する薬物の関係を述べるができる。患者が服用している可能性がある薬物について述べるができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②毎回の確認(小)テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	①教科書を中心に授業を行う。②ノートをとること。③授業の最後に学習確認テストを行う。④忘れ物をしない。 ⑤理由のない遅刻・途中退室は認めない。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	薬理学総論1	総論1 1章 薬物の作用 2章 薬物動態(1)		
	2	薬理学総論2	総論2 2章 薬物動態(2) 3章 薬物の適用方法(1)		
	3	薬理学総論3	総論3 3章 薬物の適用方法(2) 4章 薬物の作用に影響を与える要因		
	4	薬理学総論4	総論4 5章 薬物の副作用、有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意 7章 薬物の取り扱い(1)		
	5	薬理学総論5	総論5 7章 薬物の取り扱い(2) 8章薬物と法律・薬品と医薬品		
	6	ビタミンとホルモン 末梢神経系作用薬	各論 総論6 1章 ビタミンとホルモン 2章 末梢神経系作用薬(1)		
	7	中枢神経系作用薬	2章 末梢神経系作用薬(2) 3章 中枢神経作用薬		
	8	循環器・腎・呼吸器・消化器系作用薬 血液作用薬	4章 循環器系作用薬 5章 腎臓に作用する薬 6章 呼吸器系作用薬 7章 消化器系作用薬 8章 血液に作用する薬		
	9	免疫系、抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬	9章 免疫と薬 10章 抗悪性腫瘍薬 11章代謝性疾患治療薬		
	10	炎症と薬、痛みと薬	12章 抗炎症薬 13章 痛みと薬		
	11	局所麻酔薬	14章 局所麻酔薬		
	12	抗感染薬	15章 抗感染薬		
	13	消毒薬	16章 消毒薬		
	14	う蝕予防薬	17章 う蝕予防薬		
15	歯内療法薬、歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方薬	18章 歯内療法薬 19章 歯周疾患治療薬 20章 顎・口腔粘膜疾患と薬 21章 漢方薬			

授業科目 (科目ID)	口腔衛生学 22d114		担当教員 (実務経験)	杉田 昭子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として歯科診療に従事、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、歯・口腔の疾病異常の予防法を習得する。また個人から集団を対象にした口腔保健管理の方法を習得する。					
到達目標	う蝕および歯周疾患を主とした口腔疾患の病因、病態予防法を述べる事ができる。また歯科保健活動の制度や法規について学び、各ライフステージに応じた口腔保健管理の重要性を述べる事ができる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート20%			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリントを用いて講義を行う。 ②要点はすべて板書するので、ノートをとること。毎回、講義の最後に小テストを行う。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	口腔衛生学総論 (杉田)	口腔衛生学とは、歯・口腔の健康と予防、予防の水準、ポピュレーションストラテジー			
	2	歯・口腔の構造 (杉田)	歯と歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺			
	3	歯・口腔の発生と成長 (杉田)	歯の形成・萌出の時期、形成時の栄養とホルモン			
	4	歯・口腔の機能 (杉田)	咀嚼、嚥下、味覚、発音・発声			
	5	歯・口腔の付着物 (杉田)	ペリクル、歯垢、歯石、舌苔、色素沈着物			
	6	口腔清掃1 (杉田)	口腔清掃法、人工的清掃法、補助的清掃用具			
	7	口腔清掃2 (杉田)	歯磨剤、洗口剤の種類およびその組成			
	8	歯科疾患の疫学 (杉田)	う蝕の疫学、歯周疾患の疫学、その他の疫学			
	9	う蝕の予防1 (杉田)	う蝕発生に関わる要因、う蝕活動性試験			
	10	う蝕の予防2 (杉田)	う蝕の発生要因に対する予防法			
	11	フッ化物によるう蝕予防1 (杉田)	フッ素とは、フッ素の代謝、(急性・慢性)中毒			
	12	フッ化物によるう蝕予防2 (杉田)	全身応用、局所応用(塗布、洗口、歯磨剤)			
	13	歯周疾患の予防1 (杉田)	歯周疾患の発症機序、リスクファクター、全身に与える影響			
	14	歯周疾患の予防2 (杉田)	歯周疾患の予防手段と処置			
15	その他の疾患・異常の予防 (杉田)	不正咬合、顎関節症、口臭、口腔乾燥症				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	地域保健・公衆衛生1 (藤澤)	地域社会と地域保健の概念、地域保健の組織
	17	地域保健・公衆衛生2 (藤澤)	地域保健の新しい概念、活動の進め方、健康づくり対策
	18	母子保健1 (藤澤)	母子保健の目的および概要
	19	母子保健2 (藤澤)	母子保健、小児保健
	20	母子保健3 (藤澤)	歯・口腔について、母子保健の現状と今後
	21	学校保健1 (藤澤)	学校保健の意義と概要、活動と組織
	22	学校保健2 (藤澤)	学校歯科保健
	23	成人保健 (藤澤)	成人保健の意義・現状・対策、成人期の歯科保健
	24	産業保健1 (藤澤)	産業保健の概念、職業性疾病
	25	産業保健2 (藤澤)	産業保健管理、産業保健活動
	26	老人(高齢者)保健1 (藤澤)	老化と健康、生活習慣病
	27	老人(高齢者)保健2 (藤澤)	高齢者の健康確保と口腔保健
	28	精神保健 (藤澤)	精神保健・医療・福祉、社会復帰対策
29	災害時の歯科保健 (藤澤)	大規模災害時の保健医療対策、被災地での歯科保健活動	
30	国際保健 (藤澤)	健康問題における国際協力および戦略	

授業科目 (科目ID)	衛生学・公衆衛生学 22d115		担当教員 (実務経験)	南出 保 歯科医師として歯科診療を中心に公衆衛生活動にも従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	自分自身の健康や、社会人として、医療人として、家族および地域の人々の健康を守る意識の向上をはかり、人々の健康問題を解決するために必要な知識を習得し、そのための判断力と行動力を養う。					
到達目標	広い視野で健康に関わる社会の出来事(ニュース)に関心を持ち、生活習慣や予防の視点から健康や病気には多くの要因が関わることを説明できる。日常生活や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる。地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を述べることができる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	①定期試験70% ②小テスト30%			
	レポート	%				
	小テスト	30%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	①教本と板書を減らすために講義用プリントを用いる。 ②授業終了前に、毎回小テストを行う。 ③前回授業の復習を小テストの解答・解説とともに行う。 ④授業のテーマは広範囲で、内容は豊富である。すべてを覚える勉強ではなく、心で聴いて心で感じ、そして理解することに努めること。 ⑤勉強は自分がするもの、今するもの、復習は重要である。 ⑥テストは、漢字で書くべき語句は漢字で書くこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	総論	衛生とは、歯科衛生とは、健康の概念、予防医学の概念			
	2	人口	人口構造、少子化と高齢化、出生率、平均余命、平均寿命			
	3	環境と健康(1)	環境と健康の概念、生活環境(空気、温熱環境、水など)			
	4	環境と健康(2)	上水道と下水処理、廃棄物処理、環境保全			
	5	疫学	疫学とは、疾病異常(健康障害)の発生要因、5W-1H			
	6	感染症	感染と発病、感染の三大要因、感染予防とその対策			
	7	食品と健康(1)	国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指導			
	8	食品と健康(2)	機能的食品、食中毒、食品添加物、健康日本21			
	9	地域保健	地域保健とは、地域保健の組織、住民の生活、地域特性			
	10	母子保健	母子保健の意義、母子の保健管理、母子保健対策			
	11	学校保健	学校保健の意義および概要、学校保健の活動と組織			
	12	成人・老人保健	成人・老人保健の現状の課題、成人保健と老人福祉対策			
	13	産業保健	産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健			
	14	精神保健	心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健			
15	復習とまとめ	補習、復習				

授業科目 (科目ID)	歯科衛生士概論 22d116		担当教員 (実務経験)	今村理子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、大学病院で歯科衛生士業務に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	歯科衛生士の法的性格と業務内容を理解し、歯科衛生士の役割、必要な知識や技術などについて学ぶ。					
到達目標	歯科衛生士の業務内容及び法律で定められている歯科衛生士の位置付けを述べる事ができる。歯科医療の特異性、医療との関連を理解する。歯科衛生士の活躍場所、役割、その責任について述べる事ができる。職業人としての必要な考え方や心構えを身につけ、行動できる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート評価20%			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリントなどを用いて講義を行う。②小テストの実施、レポート提出も行う。③要点はすべて板書するので、ノートをとること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	歯科衛生学とは (今村)	歯科衛生と健康、歯科衛生活動の対象と領域			
	2	歯科衛生の歴史 (今村)	歯科衛生の誕生と経緯、歯科衛生の背景と現状			
	3	歯科衛生活躍のための理論 (今村)	予防の概念、歯科衛生の考え方ー科学的思考			
	4	歯科衛生過程 (今村)	歯科衛生過程とは、活用の利点、歯科衛生過程の流れ			
	5	歯科衛生士法と歯科衛生業務 (今村)	歯科衛生士の義務と役割、関係法規と安全管理			
	6	歯科衛生士と医療倫理 (今村)	歯科衛生と倫理、対象の自己決定権の尊重、インフォームドコンセント			
	7	歯科衛生士の活動と組織 (今村)	歯科衛生活動の現状と活動の場、歯科衛生士と組織			
	8	海外における歯科衛生士 (木村)	海外における歯科衛生士の現状、社会におけるニーズと今後			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	保存修復学 22d117		担当教員 (実務経験)	佃 宣和 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として保存修復治療に従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	歯科診療の最も根幹的な部分に相当する保存修復学(齲蝕を含めた歯の硬組織疾患の予防や治療)についての知識を身に付け、それに基づいた診療補助ができるようになる。					
到達目標	歯科保存学、保存修復学の概要を述べる事ができる。口腔診査の準備、流れが説明できる。各修復処置、修復材料の特徴と処置の手順を理解し、その診療補助が実施できる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②小テスト20%			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	①教科書の内容に基づき、スライド(パワーポイント)を用い、「講義スタイル」で行う。 ②講義の終わりに内容に関して「確認小テスト」を行う。(10分ほど) ③遅刻・途中退室は、認めない。(特別な理由のある場合は除く)					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	歯科保存学総論	歯の保存療法、口腔検査について			
	2	保存修復学概要(1)	硬組織疾患、齲蝕の病態			
	3	保存修復学概要(2)	窩洞と保存修復治療について			
	4	保存修復学概要(3)	保存修復治療の準備、歯の切削・窩洞形成			
	5	保存修復学概要(4)	齲蝕の除去と歯髄保護、保存修復法の種類			
	6	コンポジットレジン修復(1)	レジン修復に用いられる材料に関して、歯質接着の基礎			
	7	コンポジットレジン修復(2)、セメント修復	レジン修復の手順とそれに関わる項目について、グラスイオノマーセメント修復			
	8	インレー修復(1)	鑄造修復のあらましとその特徴、鑄造(メタルインレー)修復の手順			
	9	インレー修復(2)、ベニヤ修復	セラミックインレー修復他、ラミネートベニヤ修復の概要			
	10	合着材および接着材、講義のまとめ	各種セメントの特徴と使用法、講義全体のまとめ			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	歯科補綴学 22d118	担当教員 (実務経験)	橋本 李奈 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として歯科補綴治療に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	急速に進む高齢化社会において歯牙の欠損に対する補綴処置のニーズは高く、特に、今まで以上に歯科医師と歯科衛生士の連携した治療が要求される。口腔内環境は全身の健康増進に間接的に関与していることを十分に知り、補綴治療の意義・方法などを学ぶ。				
到達目標	実質欠損・欠如に伴う口腔機能の変化を理解した上で、様々な補綴物を用いた治療法とその意義・重要性を習得する。そして、治療を始める際の衛生指導を述べることができる。補綴物装着後のメンテナンスまで歯科衛生士としての患者への関わりを述べることができる。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版) スライド、プリント 				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①実技試験+定期試験70% ②レポート20% ③出席数10%		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	①授業内容の板書、および臨床症例のスライド提示。②基本的に理由のない遅刻・退中は認めない。 ③再三にわたる注意を受けた際には相当の指導と評価を行う。④授業内容の予習・復習を行うこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	2章 歯科補綴治療の基礎知識1 (藤澤)	歯列弓の形態とその対合関係、基準平面		
	2	2章 歯科補綴治療の基礎知識2 (藤澤)	顎口腔系の機能、咬合様式と顎運動		
	3	3章 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療 (藤澤)	顎関節とその異常		
	4	Ⅲ編 1章 歯科衛生士の役割、2章 治療時の業務 (橋本)	診査・診断時の業務、治療時の業務(クラウン・ブリッジ)		
	5	2章 治療時の業務Ⅰ (橋本)	有床義歯(全部床義歯)作製時の検査、チェックバイト、リライン		
	6	2章 治療時の業務Ⅱ (橋本)	有床義歯(部分床義歯)作製時の検査、チェックバイト、リライン		
	7	3章 患者指導Ⅰ (橋本)	クラウン・ブリッジ・インプラントの患者指導、プロフェッショナルケア		
	8	3章 患者指導Ⅱ (橋本)	有床義歯における患者指導、義歯の着脱・衛生管理		
	9	4章 器材の管理 (橋本)	器具・器材別、滅菌・消毒・洗浄・保管		
	10	5章 治療に用いられる器材(技工所見学) (橋本)	クラウン・ブリッジ作製の術式、器材、テンポラリークラウン		
	11	6章 治療における歯科技工(技工所見学) (橋本)	クラウン・ブリッジの技工操作について		
	12	2章 クラウンとブリッジの治療 4章インプラント治療 (橋本)	治療の流れ1		
	13	3章 有床義歯治療 (橋本)	治療の流れ2		
	14	Ⅱ編 1章 検査と診査 (橋本)	医療面接と診査、検査		
15	4章 器材の管理2 (橋本)	技工指示書の見方、技工物関連の管理			

授業科目 (科目ID)	口腔外科・歯科麻酔学 22d119		担当教員 (実務経験)	宮崎 晃亘 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として口腔外科治療に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	口腔外科疾患の臨床を理解し、歯科衛生士に求められる基本的な診療助と患者看護能力を身につける。					
到達目標	バイタルサインと異常の有無を予測できる。コミュニケーションスキル及び患者観察の重要性を説明できる。口腔外科外来手術に用いられる基本的な器具・機械の名称を記憶する。滅菌・消毒の意義を述べることができる。					
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版) 					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③出席点10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	10%					
履修上の留意事項	①教科書「口腔外科・歯科麻酔」を通読する。一般には馴染みのない専門用語と漢字が繰り返し出てくるので、声を出して読むことで「慣れる」こと。また、口腔外科疾患については、各章に画像ファイル(パワーポイント)を作成し閲覧を行う。なお、個人情報保護法に触れる恐れがあるため、供覧する病態写真をプリントして配布することはしない。授業内に把握すること。②口腔外科疾患の授業ではできるだけ多くの症例(病態)写真を供覧する。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	I編 口腔外科の概要 (宮崎)	口腔病変と全身疾患との関わり、歯科衛生士の役割			
	2	顎・口腔領域の異常 (宮崎)	歯の異常、軟組織の異常、唇裂・口蓋裂・顎			
	3	顎・口腔領域の損傷、機能障害 (宮崎)	損傷、外傷、骨折、顎関節			
	4	口腔粘膜の病変 (宮崎)	水疱形成、潰瘍、白斑、色素沈着、口腔乾燥症など			
	5	顎・口腔領域の化膿性炎症、嚢胞性疾患 (宮崎)	歯周組織、顎骨及び周囲炎、菌源性・粘液嚢胞の病態を把握する。			
	6	顎・口腔領域の腫瘍、唾液腺疾患 (宮崎)	菌源性・非菌源性腫瘍の病態の把握、唾液腺疾患、唾石、唾液腺腫瘍			
	7	神経疾患、口腔外科診療の実際 (宮崎)	神経痛、麻痺など、口腔外科小手術、止血処置、縫合処置、救急蘇生法			
	8	II編 歯科治療と歯科麻酔 (宮崎)	局所麻酔・精神鎮静法、全身麻酔			
	9	III編 問診、検査 (松岡)	問診、臨床検査、局所麻酔、精神鎮静法時の業務			
	10	抜歯術① (松岡)	局所麻酔器材、普通抜歯の術式と使用器材の名称・使用目的			
	11	創傷処置・抜歯術② (松岡)	難抜歯の術式と使用器材の名称・使用目的、縫合			
	12	口腔外科小手術 (松岡)	歯槽整形・骨瘤除去、替刃メスの取扱い			
	13	口腔出血に対する処置 (松岡)	切開・排膿の手術、嚢胞摘出手術			
	14	口腔出血に対する処置法 (松岡)	手術の流れと介助法、歯肉包帯剤の取扱い			
15	歯科衛生士行う管理 (松岡)	術前・術後の管理、消毒・滅菌				

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	小児歯科学 22d120		担当教員 (実務経験)	吉原 俊博 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として、小児の歯科治療に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	小児に対する歯科診療を理解し、適切な診療補助を行うための知識を習得する。				
到達目標	小児に全身および口腔の発達について述べることができる。小児に対する各種歯科、特に成人との相違について区別できる。小児に対する齲蝕予防法について述べるができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「小児歯科学」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②出席点・レポート点20%		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	①教科書を中心とした講義を行い、随時演習や小テストを行う。講義中の質問や発言は歓迎。積極的に授業に参加すること。 ②大人としてのマナーを持った授業態度を望む。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	I-1章 小児歯科学概論、2章 心身の発育 (吉原)	小児歯科学とは、発育の概念、評価、精神の発達		
	2	I-3章 小児の生理的特徴、4章 顔面頭蓋の発育 (吉原)	生理的特徴、顎顔面頭蓋の発育と評価法		
	3	I-5章 歯の発育とその異常 (吉原)	歯の形成障害、萌出異常		
	4	I-6章 歯列・咬合の発育と異常 (吉原)	発育段階・不正咬合		
	5	I-7章 小児の歯科疾患 (吉原)	小児にみられるう蝕、歯周疾患、口腔軟組織の異常と疾患		
	6	II-1章、小児の特徴と歯科的問題点 (吉原)	低年齢児、学童期、思春期の特徴と留意点		
	7	II-2章、小児歯科における診療体系1 (吉原)	小児歯科診療の特徴、原則、診察、検査、診断、麻酔法、歯冠修復		
	8	II-2章、小児歯科における診療体系2 (吉原)	歯内療法、外科的処置、外傷の処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀塗布		
	9	II-3章、小児歯科における患者との対処法 (西里)	歯科治療の時の対応法、行動療法、抑制的対応法、鎮静・減痛下の対応法		
	10	障害児の歯科治療 (西里)	主な障害とその全身的・歯科的特徴、障害児への対応		
	11	診察・検査時の業務 (西里)	診察・検査と必要な器材の準備、医療面接		
	12	う蝕予防 (西里)	ブラークコントロール・フッ化物応用、小窩裂溝填塞・食生活指導		
	13	小児歯科診療における診療補助 (西里)	保存修復・歯内療法・外科的処置、咬合誘導		
	14	小児の口腔保健管理 (西里)	方法、口腔保健管理に必要な検査と指導、患児・保護者への説明と指導		
15	歯科診療室と器材の管理 (西里)	受付・待合室・歯科診療室・器材の管理			

